プログラミング基礎 #09 変数と配列2

担当: 向井智彦

本日の内容

• 目標:変数と配列について理解を深める

- 講義内容:
 - 「変数と配列」おさらい
 - グラフィクス描画における変数・配列の利用

• 演習: 線を駆使した2次元CGプログラミング

「変数と配列」まとめ

- 変数: 1つのデータを一時保存できる
 - 変数宣言「int a; 」, 代入(上書き)「a = 10; 」
 - 変数からの代入(読み出し) 「int b = a; 」
- 配列: 同じ型の複数の変数を添字付きで格納
 - 配列宣言「int a[10]; 」
 - 配列の先頭番号は 0 「a[0] = 1; J...「a[9] = 10; J
- ・ 変数を用いた演算
 - 「a = a + b + 10 * a; 」など代入演算子 = の左右に 同じ変数が登場する際の動作

以下のプログラムの出力は?

```
int a = 0, b = 0; // 2つまとめて宣言&初期化
a = 10;
b = a;
a = a + 20;
cout << a << ", " << b << endl;
```

1. 変数 a と b を, 初期値 0 で作成

```
int a = 0, b = 0;
a = 10;
a = a + 20;
cout << a << ", " << b << endl;
```

2. 変数 a に値 10 が代入される

```
int a = 0, b = 0;
a = 10;
a = a + 20;
cout << a << ", " << b << endl;
```

3. 1. 変数 a が保持する値 10 を読み出し

```
int a = 0, b = 0;
a = a + 20;
cout << a << ", " << b << endl;
```

3. 2. 変数 b に変数 a が保持している値 10 が 代入される

```
int a = 0, b = 0;
a = a + 20;
cout << a << ", " << b << endl;
```

4. 1. 変数 a が保持している値 10 を読み出し

```
int a = 0, b = 0;
a = 10;
cout << a << ", " << b << endl;
```

4. 2. 読み出した値 10と20を加算

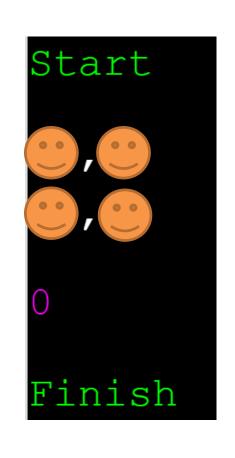
```
int a = 0, b = 0;
a = 10;
cout << a << ", " << b << endl;
```

4. 3. 加算結果 30 を変数 a に代入

```
int a = 0, b = 0;
cout << a << ", " << b << endl;
```

クイズ: 出力結果は?

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main()
  int x = 10, y = 20;
  cout << x << "," << y << endl;
  x = 30;
 x = y + x;
  y = x - 10;
  cout << x << "," << y << endl;
```



配列

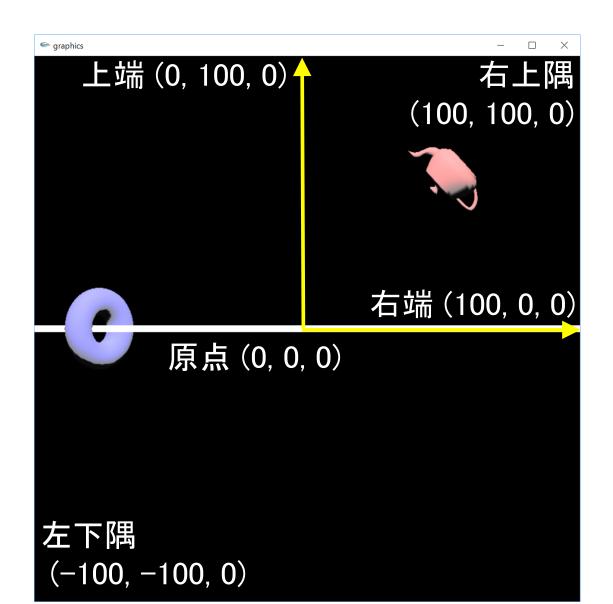
・ 複数の変数を番号付けて並べる(最初はO番)

```
#include <iostream>
using namespace std;
                            x[0] x[1] x[2]
int main()
                                    代入
  int x[3] = \{0, 0, 0\};
  x[0] = 1;-
  x[1] = 3;
                           x[0] x[1] x[2]
  x[2] = 4;
  cout << x[0] << " " << x[1] << "," << x[2] << endl;
```

Q.変数や配列は役に立つ?

- ・3本の線を用いて四角形を描く
- ・ 4本の線を用いて四角形を描く
- 多くの平行な線を描く
- 1本の線の両端で異なる色を指定する

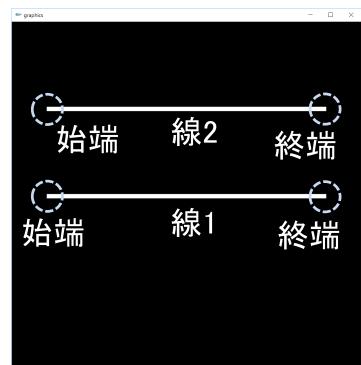
グラフィックスアプリの座標系



線の描き方 (display関数内"2Dパート"に記述)

```
// 線の太さ
glLineWidth(10.0); // これ以降に描く線は全て太さ 10
// 線の色(R, G, B)
glColor3d(1.0, 1.0, 1.0); // これ以降の頂点は全て白
// 線の描画
```

glBegin(GL_LINES); // 線描はじめ glVertex3d(-80.0, 0,0); // 線1の始端 glVertex3d(80.0, 0,0); // 線1の終端 glVertex3d(-80.0,50,0); // 線2の始端 glVertex3d(80.0,50,0); // 線2の終端 glEnd(); // 線描おわり



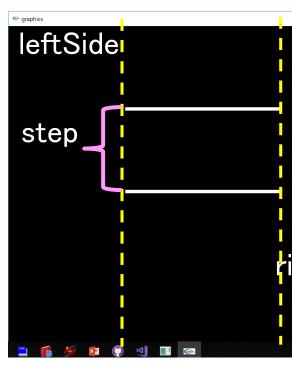
例:同じ位置を表す変数

```
double leftSide = -40.0; // 左端
double rightSide = 40.0; // 右端
glBegin(GL LINES);
                             leftSide
glVertex3d(leftSide, 0, 0);
glVertex3d(rightSide, 0, 0);
glVertex3d(leftSide, 50, 0);
glVertex3d(rightSide,50, 0);
glEnd();
```

rightSide

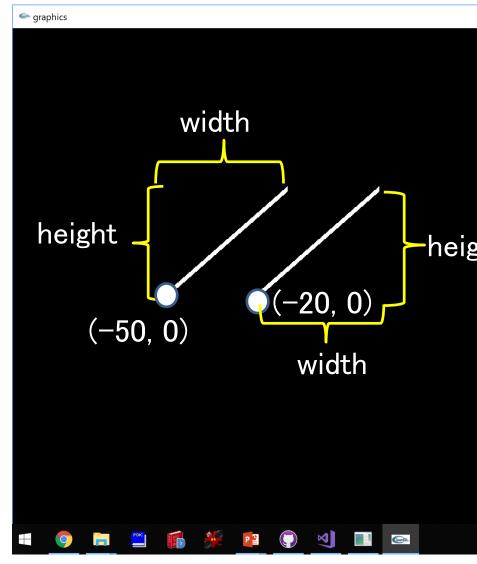
例:隣との距離を表す変数

```
double leftSide = -40.0; // 左端
double rightSide = 40.0; // 右端
double step = 40.0;
glBegin(GL LINES);
glVertex3d(leftSide, step * 0, 0);
glVertex3d(rightSide, step * 0, 0);
glVertex3d(leftSide, step * 1, 0);
glVertex3d(rightSide, step * 1, 0);
glEnd();
```



例:同じ長さ・方向を表す変数

```
double width = 40.0;
double height= 40.0;
glBegin(GL LINES);
glVertex3d(-20, 0, 0);
glVertex3d(-20 + width,
         0 + height, 0);
glVertex3d(-50, 0, 0);
glVertex3d(-50 + width,
         0 + height, 0);
glEnd();
```



例:色を表す配列

```
double red[3] = \{1.0, 0.0, 0.0\};
double yellow[3] = \{1.0, 1.0, 0.0\};
glBegin(GL LINES);
glColor3d(red[0], red[1], red[2]);
glVertex3d(-40.0, 0, 0);
glVertex3d(40.0, 0, 0);
glColor3d(yellow[0], yellow[1],
          yellow[2]);
glVertex3d(-40.0, 50, 0);
glVertex3d( 40.0,50, 0);
glEnd();
```

使い分けワンポイント

- 同種類・同意味の複数の値をまとめて扱う時 には配列を利用
- その他の場合は変数を利用
 - 1つの値だけを用いる場合
 - 異なる種類・異なる意味を持つ複数の値

ワンポイントの例1

望ましくない書き方

```
double karada[4];
```

karada[0] = 1.7; //身長

karada[1] = 65.0;//体重

karada[2] = 18.5;//体脂肪

karada[3] = 75.0;//胴回り

異なる種類・異なる意味の数字が1つの配列にまとめられている

望ましい書き方

```
double shincho;
double weight;
double bodyfat;
```

double waist;

異なる意味・単一の数値が 各1つの変数で表されている (double shicho[1];など も冗長なので避ける)

※ちなみに本例はクラスを用いるのが適当

● 始端(x, y)

ワンポイントの例2

終端(x', y')

望ましくない書き方

```
double pos[4];
pos[0] =-40.5; //始端x
pos[1] = 65.0; //終端y
pos[2] = 12.5; //始端x'
pos[3] = -5.0; //終端y'
```

異なる種類・異なる意味の数字が1つの配列にまとめられている

望ましい書き方

```
double shitan[2];
double shutan[2];
あるいは
double xpos[2];
double ypos[2];
```

同じ種類・同じ意味の数値を それぞれ配列にまとめる

(shitan_x, ... shutan_y のように 4つの変数にバラしても可)

※ちなみに本例もクラスを用いるのが適当

演習課題BASIC

- ・ 線を駆使した見栄えのする静止2DCGを制作
 - -制約事項(次ページ)を守っていれば何でもアリ
 - 題材は自由 図形を描いてもOK
 - 線の種類(直線、曲線、折れ線など)、長さ、方向、 太さは全て自由
 - モノクロでもカラーでもOK
 - プログラムの書き方も自由
 - for文やif文を使ってもOK(来週以降の講義内容...)

BASICの制約事項

- 1. 線の本数は6本以上(上限ナシ)
- 2. 1つの変数あるいは配列を編集するだけで、複数 の線を同時に操作できるようにしておく
 - 1つの変数を書き換えるだけで、全ての線の太さを一括で操作するとか
 - − グループ分けされた図形の大きさを、それぞれのグループの大きさを表す変数・配列を通じて一括操作するや
 - 配列の値を書き換えるだけで、いくつかの線の色を一括 して変更する など
- 3. 用意した変数の機能をプログラム中にコメント
 - スラッシュ2つ「//」以降はコメントとみなされる

演習課題 EXTRA

- ・ 線を駆使した見栄えのする2DCGアニメーションを制作
 - 制約事項: アニメーションはループ再生
 - その他の制約なし。自由
 - 線の長さ、方向、太さなどがアニメーションするとか
 - 複数の線が移動して形が変わるとか
 - 色がアニメーションするとか
 - 線の本数も自由(合体・分離して増えたり減ったり)
 - 各自のC++スキルは存分に活用

演習課題 ADVANCED

数式を用いて星型の線を描画

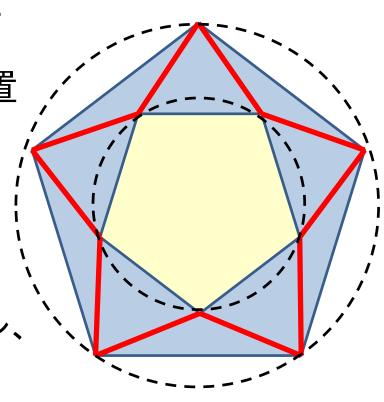
- 星を構成する10個の頂点位置 を計算(右図参照)

- 星の形と大きさを操作するための変数を用意

• hint: 2つの外接円の半径

ad-hint: 外接円の中心位置ズレ、 五角形の回転量を指定

• アニメーションがあるとbetter



提出方法

- graphics/main.cpp を修正しコミット&プルリク
 - ファイル名を変える必要はありません
 - 上書き前の内容は全てGithubに保存されています
 - あとから復元可能です
 - それでも不安な人は、オリジナルの main.cpp を 別名でバックアップしておくとよいでしょう
 - main_org.cpp など